

大豆管理情報 第4号

大豆は旺盛に生育しており、開花期は7月10日頃（単作）でした。
 今年の夏は高温が予想されていますので、病害虫防除、畦間かん水の実施等
 適切な管理を徹底しましょう。

1. 病害虫防除 基本防除は適期に2回確実にいきましょう!

○播種時期によって生育が異なりますので、莢の大きさを確認して防除しましょう。

【基本防除】

	防除時期（目安）	剤型	対象病害虫	薬剤名	10aあたり 使用量		希釈 倍数	総使用 回数	収穫前 日数
1 回 目	莢が伸びきった頃 ○5月下旬播種 ⇒8月10日頃 ○6月上旬播種 ⇒8月14日頃	粉剤	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	スミチオンベルク ート粉剤DL	3 kg		-	4回 以内	21日 前まで
		液剤	紫斑病	アミスター20 フロアブル	50 ml	水 150 ㍓	3000	2回 以内	7日 前まで
			アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ マメシクイガ	ダントツ フロアブル	60 ml		2,500	3回 以内	
2 回 目	子実が莢いっぱい 膨らむ頃 ○5月下旬播種 ⇒8月20日頃 ○6月上旬播種 ⇒8月24日頃	粉剤	紫斑病 アブラムシ類 カメムシ類 ハスモンヨトウ	マネーヅトレボ ン 粉剤DL	4 kg		-	2回 以内	30日 前まで
		液剤	紫斑病 アブラムシ類 カメムシ類 マメシクイガ	マネーヅトレボ ン フロアブル	150 ml	水 150 ㍓	1,000	2回 以内	30日 前まで

【随時防除】

○ ウコンノメイガ(葉巻):

6枚葉巻した株がほ場内に連続して20本以上ある場合は、速やかに
サイアノックス粉剤で防除しましょう。

使用量：4kg/10a（2回以内）、収穫前日数：7日前まで

○ 葉焼病:

発生が見られたら速やかにZボルドーや撒粉ボルドー粉剤
DL等で防除しましょう。



葉焼病

裏面もご覧下さい。

2. 青立ち防止のための畦間かん水とカメムシ防除

○収穫期に発生する青立ちは、大豆の生育に対して莢が少ないと発生します。
莢が少なくなる主な原因は、土壌の乾燥とカメムシによる食害です。

対策1：土壌水分を維持する畦間かん水

- ① 9月上旬頃まで、3日以上晴天が続き、土壌が白く乾いたら、畦間かん水を実施しましょう。
- ② かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止めて、速やかに排水しましょう。

対策2：カメムシの防除

- ① 基本防除を終了した後、ほ場内でカメムシが見られた場合は9月上旬に追加防除を行いましょう。(防除の要否や防除時期、薬剤等は営農指導員等にご相談願います。)

3. 排水対策 溝と排水口の連結を徹底し、水を停滞させない！

○降雨後の排水や畦間かん水時の入排水をスムーズにするため、培土でできた溝と額縁排水溝の連結や、排水口の掘り下げを確実に行いましょう。

4. 雑草防除 大豆にかからないように注意！

○大豆ほ場にヒエやタデ等の雑草が残っている場合は、以下の除草剤を活用しましょう。
【散布にあたっては、吊り下げノズルが必要です。】

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	総使用 回数	使用 方法
バスタ液剤 (畦間・株間処理)	1年生 雑草	大豆本葉5葉期以降 雑草生育期 但し、収穫28日前まで (8月末頃まで)	300~500ml (水 100~150L)	3回 以内	雑草 茎葉散布
ザクサ液剤 (畦間処理)	1年生 雑草	雑草生育期 但し、収穫28日前まで (8月末頃まで)	300~500ml (水 100~150L)	3回 以内	雑草 茎葉散布
ラウンドアップ マックスロード (畦間処理)	1年生 雑草	雑草生育期 但し、収穫前日まで	200~500ml (水 50~100L)	2回 以内	雑草 茎葉散布

【難防除雑草】 — 外から入れない、増やさない、外に出さない —

○近年、帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類等の発生が問題となっています。
これらの雑草は、早期発見に努め、雑草が実を結ぶ前に防除(手取り、バスタ液剤やザクサ液剤等による除草剤散布)を徹底しましょう。